

会 議 報 告

会議名	新宮市教育環境整備計画審議会（小中学校適正規模検討委員会）
日 時	平成 18 年 8 月 30 日（水） 午後 7 時 15 分～
場 所	新宮市役所第 2 委員会室
出席者	小中学校適正規模検討委員会 10 名全員出席
概 要	<p>1．前回会議の質疑内容について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新宮市の耐震診断の基準 ・学校の地域性を活かした取組 ・児童生徒の通学状況 ・新宮市の将来人口 <p>2．小規模校・適正規模校以上のメリット・デメリットについて （質疑）</p> <p>委員長 和歌山市でも学校でクラブ活動や徒競走もできない状況がある。小さい学校では、よく目が行き届くというメリットがあるが、大きな学校でも小さなクラスにすることにより同じようにできる。</p> <p>A 委員 学校への思い入れもあり、本当に子どもにメリットがあるのか、納得できるものがあれば良いと思う。先生の数、維持費等の問題もあるが・・・。小さい学校の方が、地域との密着度が高い。地域が協力してくれる。</p> <p>委員長 密着しているよりも困り込みになっていないか。地域の公共性を大切に。うちの子だけでなく、よその子も皆の子として目をかける。運動会も合同で行うこともできる。</p> <p>B 委員 適正規模とは、教育面から見れば学校は教育の場だけではない。災害時にも学校やグラウンドがあるから避難できる。地域コミュニティの問題として、統合した際の影響、広がった学区の公民活動など。人口は減る一方なので学校統合を市は考えているが、人口を増やす施策を市は考えないのか。将来の街づくりも並行して考えるべきではないか。市庁舎が移ることにより、人の流れが変わる。若い人の住む家が校区になく、他の校区から 2 代目が子どもを通学させている。</p> <p>C 委員 街づくりについては、跡地利用のところで検討しないと、本筋から離れてしまう。</p> <p>D 委員 生徒数が 39 人か 41 人かで大きく違ってくる。35 人学級にすれば 2 クラスになる。低学年の場合、35 人学級でない先生も苦しいのではないかと。学級数が増えれば、先生の数も増え財政的には大変だが、子どもには良いのではないかと。</p> <p>委員長 犬山市や埼玉県信貴市では、担任を持っていない先生に担任を持ってもらい、少人数を実現したところもあるが、当然支出は増える。</p> <p>D 委員 周りの人に聞くと、中学校はクラブ活動面等で統合に前向きだが、小学校は地域性が強い。</p>

- E 委員 教育委員会主催で PTA など説明会を開いて意見を聞いてはどうか。
委員長 説明会等では声の大きい人の意見が採用されるという欠点もある。
事務局 事務局では、小中学校、幼稚園、保育園の教諭、保護者、一般市民へのアンケートを行う予定で、これにより地域の声を汲み上げたい。
- F 委員 学校も先生方の個人評価が導入されたり、変革の時となっている。障害児が 1 学級に 6 %程度いる。
委員長 ユニバーサルデザインになった。子ども教育のバージョンアップが必要。先生方にも地域に向き合っていただく。
- G 委員 緑丘中学校では今年度、キャリア教育を行う。商工会議所や商店街の協力を得て職業体験を地域で学ぶ。総合的な学習の時間では、福祉体験も実施する。
- H 委員 保護者同士のコミュニケーション不足だ。育友会役員のきめ方にも問題があるが、一度役員を引き受けるとずっと役員を持つことになり、人物も偏ってしまう。学校がなくなれば、人は特に若い世代は住まなくなる。高田小中学校は今回は除くべきだと思う。
委員長 小規模特認校制度というのがあり、高田小中学校について検討していただければと思う。
- F 委員 私も高田小学校で勤務したが、中学校はクラブができない。中学校は統合した方が良いのではないかと思うが、小学校は今の状態の方が良いのではないか。熊野川町ではかつて 16 校あったが、今は 1 校である。古座川町も統廃合が進み、若い人が住まなくなった。

(午後 9 時 20 分終了)